



家庭

教育上に於ける家庭の地位

齋藤鹿三郎

國のもとは、家に在りといふことは、人類發達の上より見ても、國家發達の上より見ても、顯著なることでありませぬ、之どおなじく、國家教育の基礎も個人教育の基礎も、ともに家庭にあるといふことは、明なることでありませぬ。さて、家庭に於ける教育とは、いかなることを云ふかと申しませすれば、一家族内に於て、其子女を教養するに、教育作用の總體を結合して、其心身の陶成と健全とをはかることでありませぬ。而して、家庭は三種の特別なる條件を含有するを以て、其の間

に於ける教育は、他の教育にくらべて、大なる効驗を有するのでありませぬ。今、左に、之をのべませう。

一、家族は、血族的關係上より、相一致し、相依頼する性質を有す。

このことより、申しませれば、第一、家庭内に於ては、家庭全體が、すべての點より、其子女の教養に關する注意を、怠ることがありませぬから、もし、家庭全體が子女の教育法をこゝろえて、居りましたならば、其功果がいかに、大なるものでありませぬかは、實に想像のほかであらうと思はれませぬ。第二、子女は、なにごとも、みな、家族内に起りしことを、見習ふものなれば、家族全體が一致して、こどもに、一種の傾向又はある興味を興へ、善良なる習慣を形成せんと欲せば、其容易いことは、じつに、學校のたぐひではありませぬ。故に、もし、家族が子供の教養について正當高尚

な理想を有せしならば、其子女の將來は、いかに幸なるかは、はかり知られるでありません。第二、家族内の交際より生ずる好意の情は、實に其後來の生活状態に關して、其人品を確定する基礎となるものであります。もし、家族の情が、濫乎たる玉の如きものならしめば、其中に、生活せし子女の心情をトすることは、容易なることであります。

二、家族は、家長に對して、服従尊敬の意を表すものなり。

これら、家族の一致協合ほど、強固にして、且つ、親密なもの、ありません。其故は、主として、家族全體が、家長を尊敬信用し、之に服従することをつとめるからであります。而して、この尊敬と服従とは、まことに、人類の處世上には、大切なことであります。人に尊敬せられるものは、人を尊敬することをし

り、人を服従させるものは、よく、人に服従することを得るものであります。此關係がまさらかに、履行せられる、家庭内にぞだつ子供は、其心情中に尊敬と服従との根柢をかため、國家及社會の生活上に於ける、重要な道徳の基礎を形成し、高尚なる人品の素地をつくることは、明なことがらであります。

三、家族内に於ては、最も、よく、子女の性質を知ることを得。

子を知るは、親に如かずと申すごとく、よく、子女の性質を明に、察知することは、家庭にまさるものはありません。これ、家庭は教育を施すに、一番、適當な場所であると云ふことであります。

之を要するに、ペスタロッチ先生が、教育は之を母の手に委ぬべしと考へ、ヘルバルト先生が、家族は子供のため、世界秩序の標徴たるべしと叫びしも、皆

家庭教育に、以上の三優點あることを認めたらであります。殊に、吾人は、家庭教育により、他の如何なる教育の場合に於けるよりも、子女身體の發育健康を促進し、併に、其心情品性を陶冶することを得るものなることを保證するのであります。換言しますれば、家族内に於ける秩序彝倫等が子女の將來の運命に及ぼす所の作用は、他の如何なる方法によるも到底企て及ぶものにあらずと云ふことであります。實に家族がつくすべき諸般の義務の中、最も大切なものは、子女の教育であると云ふも、差支かなからうと思ひます。従つて一國民の幸福一國家の開明は實に、家庭内に於ける萌芽の培養如何によりて決するものであると云うても誣言でないこと、思はれます。而して、此教養の任務を帯びる者は母であります。して見れば、母の任務の大切なることは、思ひ知られることであります。

次に、家庭内に於ける、教育の方法について、一言せんに、家庭教育(乃至一般教育)は、愛の外には他に何等のものがあらうと思はれません。されど、こゝに愛と申すは姑息の愛にあらずして、高尚遠大なる愛の作用を申すのであります。實に愛の擴充は、教育の本旨であらうと思はれます。何とすれば、愛情の活動するや、其極限は禽獸草木に及ぶものでありますから、他人に對して同情心を起すが如きことは、勿論であります。しかるに、此好意の情なるものは、實に、人間の價値を定むるものでありまして、高尚なる徳の一であります。故に家庭に於ては、父母は子を愛し、兄弟は弟妹を愛し、弟妹は兄弟を愛し、愛と愛との交換により次第に好意、親信、尊敬、服従、報恩等の諸徳を養成し、漸く進んでは、行儀作法を正しくすること、秩序を守ることを、事物に注意すること等の習慣も、皆、此

愛の情より、いでたる結果たるに至らしむることを主眼とせねばなりません。最後に、一言して警戒すべきことは、若し、其父母後見人、殊に母が教育の心得なきか、又は、其方法を誤るときは、實に、其子女をして將來、不幸なる運命に陥らしめるにいたるべしといふことであります。

簡易料理

鯛の料理

鯛の料理のうちで、味が、しごく、淡泊で、だれの口にも合ふようにするには、次の如くにする。まづ、鯛の身を、とりて摺身をつくり、これに長芋をすり込み、其中へ鹽をすこしばかり加へて、小皿にとり、さて之を煮たたる湯のなかに入れて湯出るのであります。

鰾の三品汁

鰾の料理法のうちで、一寸風味がかはつて、口受のよろしきは、大根、葱、胡椒の三品汁にしますので、まづ、鰾の身を粗の上にのせ、庖丁で、たゝきながら、葛をふりかけ、それから、之を油で、わけてさきの三品と一所にして、すましの汁にして用ゆるのです。

生凍豆腐

豆腐を、一夜のうちに凍して用ゆるのは、普通の凍豆腐とは味が、かはつて、又一種の風味がある。まづ、豆腐を一寸四方位に、小さく切り、一寸煮湯の中へつけて、大抵なかまで、通つたと思ふころ、ひき上げて、ざるにならべ、夜のうち、外へだして置けば、一夜で、生凍りの豆腐がでます。

